

## 保険で良い歯科医療の実現を求める要請書

お口の健康は、全身の健康に深く関係しています。歯を治療することによって糖尿病、腎臓病、心筋梗塞、さらには認知症などの改善につながっていることも明らかになってきています。

しかし、日本社会では格差と貧困が拡大し、子どもから高齢者までの健康悪化と口腔崩壊ともいえる深刻な事態が新たに広がっています。

厳しい労働環境や格差と貧困の広がり、経済的理由での未受診、歯科治療の早期受診や治療の継続を妨げています。加えて歯科では日常的に普及した治療でも保険のきかない治療があるために、お金の面での不安が受診を妨げる要因にもなっています。

さらに、長年にわたる国による歯科医療費の抑制政策のもと、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士などの歯科医療従事者の経営、労働に大きなしわ寄せがきています。

いつでも、どこでも、だれもお金の心配をせず、「保険で良い歯科医療」を実現することは、患者、国民、歯科医療従事者の共通の願いです。

以上の趣旨をふまえ、私たちは、「保険で良い歯科医療」の実現のため、下記の項目を政府、厚生労働省に要請を重ね、この10年間で約140万筆を超える請願署名を提出してきましたが、残念ながらその実現にはいたっていません。

7月に実施予定の参議院選挙での貴党の選挙公約（マニフェスト）に、以下の要求を取り入れていただくとともに、その実現のためにご尽力いただくよう要望致します。

### 【私たちの要求】

#### 1. 窓口負担の軽減

全国保険医団体連合会が実施した受診実態調査によれば、医療費負担などの経済的な理由による治療の中断を経験した歯科医療機関は51.7%にもものぼります。さらに治療中断が生じた患者の病名は、患者負担が重くなる歯冠修復・欠損補綴が約8割にのぼりました。

お金の心配をせず、歯科医療が受けられるよう、窓口負担割合を引き下げて下さい。

#### 2. 保険のきく範囲の拡大を

歯科治療では、保険のきく治療の範囲が限られているため、「歯の治療はいくらお金がかかるかわからない」という不安が歯科の受診の手控えに繋がっています。

品質や安全性が確保され、定着している治療技術や材料を保険に導入して下さい。

#### 3. 歯科技工士の適正な評価を

低い歯科医療費のしわ寄せが、歯科技工士にも重くのしかかっています。低報酬のもと、低賃金・長時間労働を強いられ、20～30歳代の若い歯科技工士の離職率は約8割と異常な事態です。このままでは高齢者にとって欠かせない保険の補綴治療が困難になる

ことが予想されます。補綴関連の技工技術料の大幅な引き上げと、技工技術料が適正に配分されるような制度的保障を確立して下さい。

#### 4. 歯科衛生士が活躍できる評価と施策を

口腔ケアのニーズが高まり、歯科衛生士の役割を発揮する業務の機会が広がっています。しかし低報酬のもと、歯科衛生士の有資格者の約6割が未就業という現実があります。その役割にふさわしく歯科衛生士の教育の充実と、歯科診療所はもちろん、病院、施設、在宅などでの活躍が期待できるよう施策をとるようにして下さい。

#### 5. 歯科医療にかかる予算の拡大

「保険で良い歯科医療」を実現するためには、長年にわたる政府による低診療報酬政策をあらためる必要があります。国民医療費に占める歯科医療費の割合は、6.8%と横ばい状態です。歯科医療費の総枠を拡大するとともに、歯科診療報酬の大幅引き上げをお願いします。

2016年5月19日

「保険で良い歯科医療を」全国連絡会